

会 議 録

1 会議名

令和7年度第1回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的な審議】

- ・カルチャーセンター敷地内の「資源物常時回収ステーション」について（公開）
- ・自主的審議事項について（公開）

3 開催日時

令和7年5月12日（月）午後6時30分から午後7時30分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）

- ・委 員： 熊木会長、市川副会長、荒井委員、五十嵐委員、栗間委員、木浦委員、高橋（邦）委員、高橋（秀）委員、高山委員、名取委員、峯村委員、柳澤委員（欠席者4名）
- ・生活環境課： 荒川副課長、山崎主任
- ・事 務 局： 北部まちづくりセンター
内藤所長、勝島副所長、石崎係長、丸山主任

8 発言の内容

【勝島副所長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

4月の人事異動により、事務局の体制が変わったので、職員からご挨拶をさせていただく。

- ・北部まちづくりセンター職員挨拶

本日は、自主的な審議に関して、生活環境課が来ている。

【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：高山委員、名取委員に依頼

議題【自主的な審議】カルチャーセンター敷地内の「資源物常時回収ステーション」について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

令和6年度第4回地域協議会で、カルチャーセンターの利活用について自主的に審議していくこととした。その中で、カルチャーセンターの敷地内に設置されている資源物常時回収ステーションに、利用者が車で勢いよく入り込み危険であるという意見が出されたことから、本日は、生活環境課から、現在の利用状況や検討していること等を説明していただき、その後、意見交換を行いたい。

【生活環境課：荒川副課長】

- ・挨拶
- ・資料No.1「資源物常時回収ステーションの利用状況について」に基づき説明

【熊木会長】

ただ今の説明に対し、質問、意見等はあるか。

【栗間委員】

段ボールを紐で縛る決まりとなっているが、ビニール紐で縛っていると処理する際に外すのが大変ではないか。どのような形で捨てるのか分からないが、紐が紙などであれば、段ボールや新聞と一緒に処理できるが、ビニール紐では、取り外す作業のほうが手間がかかるのではないかと思う。

【生活環境課：荒川副課長】

当課では、可能な限り紙紐で縛っていただくようお願いしているが、それができない場合もあるので、現状では、ビニールやナイロン製のもので縛っているものもある。

収集車両に積み込むときには、紐で縛っていただいたほうが効率よく作業を行うことができるので、収集運搬の効率化から縛っていただくようお願いをしている。紐は、その後の中間処理業者による作業の中でほどいている。

【高橋（秀）委員】

カルチャーセンターのステーションは安全対策が問題で、直線だからスピードを出すというよりも、設置場所自体に問題がある。ちょうどステーションの前がカルチャーセンターの駐車場で、センターの利用者が建物に向かって横断する。例えば、この対策案を見ると、横断歩道は捨てに来た人のための横断歩道であって、センターに来る人のための横断歩道ではないので、暫定的な対策としてこういうことが必要なのかもしれないが、体育館の入り口が全く使えない状態になっていることも踏まえて、恒久対策として移設することはできないか。カルチャーセンターがいいのであれば、敷地の端のほうへ移設するなど検討していただきたい。今日説明された対策案だけで終わりと言われると非常に困る。実際、渡っている人たちがひかれそうになったり、オートバイがひっくり返ったりなど何回かある。

【生活環境課：荒川副課長】

平成17年の市町村合併から20年が経過していることから、ステーションの設置目的や役割の再確認を行う時期に来ているのではないかと考えている。

今ほどご意見をいただいたステーションの移設についても、設置目的や役割の再確認の中で一つの選択肢として検討していくことになるのではないかと考えている。一方で、日々ステーションを開設しているため、利用者の安全を確保するという点で、今ほどご説明した安全対策を取らせていただけないかと考えている。

【高山委員】

利用状況の中でごみに関する問題がまとめられているが、各町内でも様々な問題がある。例えば、私どもの町内であれば、まだ無記名のごみ袋が出てくるので、当番を決めて、町内に記名の徹底を呼び掛けたところ、ここ2、3年は目に見えて良くなってきているのではないかと実感している。

資料に「適正利用を呼び掛け」とあるが、不法やルールを守らないなどの集積所の利用実態をどのように捉えているのか。

【生活環境課：荒川副課長】

分別、排出のルールが守られていないごみを「違反ごみ」と呼んでいるが、違反ごみの発生件数は、詳細な数字が手元にないのでこの場では申し上げられないが、発生している。

違反ごみについては、町内会の皆様のご協力の下、再分別などの処理をいただいている場合もあるが、町内会ではどうにもならないものもあるので、そのようなときには、

当課にご連絡をいただき、内容を聞き取った上で、職員が回収に向かうといった対応をとっている。

こうしたごみの問題は、特効薬というものがないと考えている。地道な取組になるが、繰り返し、様々な機会、様々な方法を用いて、市民の皆さんにお願いしていくほかないのではないかと考えているので、今後も繰り返し呼び掛けていきたいと考えている。

【高橋（邦）委員】

当協議会では、カルチャーセンターの利活用の問題として、玄関先にごみステーションがあるということが一番の問題にしている。

現場を見ると、資料の写真のように非常に利用状況が悪いケースもある。施設の入り口がそのような状態になっていることがおかしいのであって、設置場所が適切ではないことと安全対策は全く別の話である。その辺についてはどのようにお考えか。

【生活環境課：荒川副課長】

横断歩道や停止線を路面標示することについては、カルチャーセンター利用者への安全対策ということもあるので、カルチャーセンターを所管する課とも協議した上で、整理をしていきたいと思っている。

移設については、この場で確定的なことは申し上げられないが、先ほど申し上げたように、合併から20年が経過することから、ほかの4か所も含めて、今後ステーションをどうしていくかということを考える中で、移設や集約といったことも選択肢として出てくるかと思う。1か月、2か月で答えが出るとは思っていないので、ステーション全体の中で検討させていただき、何らかの方向性をお示ししていきたいと思っている。

【高橋（邦）委員】

市全体の中で検討とのことだが、20年経過したので、利用勝手がどうかそういったことを見直しするのは分かるが、カルチャーセンターのステーションは明らかに設置環境が劣悪で、ほかとは違う。それは、ほかの5か所や、13区を含め、18か所で統一的なものを出していくというレベルではないと思う。

市全体でという問題ではなく、市民が普通に玄関として使う場所に設置されていて、その利用状況が非常に良くないという、あくまでもカルチャーセンター独自の課題を何とかしてほしいというのが、有田区地域協議会から話している内容である。

人の出入り口になっているような場所に、そういうものが設置されていること自体が問題だという認識はあるのか。

【生活環境課：荒川副課長】

合併前上越市5か所の中でも、施設の出入口にステーションを設置しているという他のステーションにはない特殊事情があるということは認識しているので、そのことも含めて今後検討させていただきたいと思う。

【荒井委員】

仕事をしている身として、資源ごみの回収ステーションはいつもありがたく使用させていただいている。

カルチャーセンターのステーションは奥まっけていて、動線的に使づらいと感じている。ステーションの見直しをする際には、是非そういった利用者目線で考えていただけるとありがたい。

今後、方針が出るのはいつ頃になるのか、教えていただけると安心である。

【生活環境課：荒川副課長】

今ほどご意見をいただいた「利用者目線」や「動線」も含めて検討させていただくが、いつになれば方針をお示しできるのかは、この場で、私の一存で申し上げることはできない。

先ほど申し上げたように、カルチャーセンターについては、施設の出入口に設置されているという特殊事情もあるので、何年も先送りするという事はないが、具体的な時期については、ご容赦いただきたい。

【高橋（秀）委員】

カルチャーセンターのステーションをなくしてほしいという話ではない。カルチャーセンターのいいところに移動できないかという話は、3、4年前から直接担当課長さんと話したりしている。市全体にあるのでそれと調整するという話であったが、カルチャーセンターに関しては、ただ場所を移動すればいいのではないかと。

予算や時間もかかると思うので、どこまで検討が進んでいるのか、進捗が見えるようにしていただきたい。

ここは住宅地と離れているので来やすいということもあり、サッカー場を子どもたちが使っていようが、野球場を使っていようが、おかまいなしに入って来る。そういうことを放置した場合、なにかあった時に誰が責任を取るのかということになる。早めに対応していただきたい。

市全体でなければできないということも分からないではないが、カルチャーセンター

はほかの場所とは状況が違うということを入念に入れておいていただきたい。

【生活環境課：荒川副課長】

今後検討していく中で、移設ということも選択肢の1つになるかと思う。その際には、移設にどのくらいの費用がかかるのかということも見積もっていかなければならないと思っている。

【栗間委員】

資料の写真からマナーの悪さがよく分かるが、ステーションが狭いというのがあるのではないかと。段ボールなどが外にはみ出すと雨天時にはぐしゃぐしゃになってしまう。できればもう少し大きめの箱を設置していただければ、はみ出て雨に打たれるということとはなくなるかもしれないので、是非お願いしたい。

【生活環境課：荒川副課長】

市民の皆さんが排出する資源物を全て受け入れることができる箱を用意するのはなかなか難しいと思うが、当課の職員が毎日整頓作業を行っているので、施設と人的措置の両輪で対応していきたいと思っている。

【名取委員】

私もゴールデンウィークに段ボールを捨てに行ったが、ステーション内の段ボールに押されて扉が開かない状況だった。

イオンでは、段ボールは投げ込んでいたと思うが、ステーションも投げ込むような形にするといった工夫も考えていただきたい。また、写真のごみの量を見ると、ステーションの数が少ないのではないかと。もう少し増やすと利用状況の改善にもつながるのではないかと考えた。

【生活環境課：荒川副課長】

投げ込みできるステーションについては、収集の作業効率ということも踏まえ検討しなければならないので、ご意見として承る。

ステーションを増やすことについては、市全体の資源物の排出量の推移などを見ながら検討していきたいと思う。

【高橋（秀）委員】

私は、カルチャーセンターに1週間に3日くらい来ている。今、段ボールの話があったが、連休後は、ステーションの倍ぐらいの量が捨てられて、はみ出していた。そうかと思うと、ステーションの半分程度の日もある。統計的に見て、ごみの多いとき少ない

ときを把握しないと、ただ器を大きくするということになってしまう。

投げ込む形のステーションの話もあったが、一昨年、大風が吹いたときに、ステーションがまるごと吹っ飛んだ。このようなとき、中のごみも一緒に飛んでしまうので、ネットで押さえるなどの対策をしていかないといけないと思う。

私の意見としては、あまり欲張らずに、今のまま、カルチャーセンターの利用に影響のない場所に移設してもらうことを考えるのがいいと思う。あれもこれもやらなければいけないとなると、よりお金のかかる話になってしまう。

【生活環境課：荒川副課長】

ごみの量については、ゴールデンウィークなど大型連休明けや年末年始に多く排出される。ステーションは、令和5年度から年始は閉鎖しているが、年末は収集事業者の協力を得て、臨時収集という形で対応している。

市民の皆さんには、一度に全て排出するのではなく、二度、三度と分散して排出いただくようお願いしており、引き続きそのような形で進めていきたいと思っている。

【熊木会長】

本質の話に戻すと、当協議会としては移設しかないという結論なので、それをベースに生活環境課で検討し、結論をつけていただければと思う。早急な対応をお願いします。

－ 生活環境課 退室 －

【熊木会長】

次に、【自主的な審議】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No.2「自主的審議事項について」に基づき説明

【熊木会長】

自主的審議事項として登録する際の案であるが、ご意見等あればお願いします。

(意見等なし)

それでは、案のとおり登録する。

登録後の動きについて、事務局へ説明を求める。

【石崎係長】

- ・資料No.2『自主的審議事項について』③審議の開始」に基づき説明

前回の協議の中では、カルチャーセンターの周辺にはいろいろな施設があるが、複数の部署が管轄していて、一体の施設として利活用等を話し合う場がないというご意見があった。このことから、どの部分をどの部署が管轄しているかということや、施設の利用状況の資料を事務局で用意させていただき、協議会で状況を把握した上で、どの点がさらなる利活用を図る上で問題なのかということを確認していきという進め方でいかかか。

【熊木会長】

今ほどの説明について、意見等はあるか

(意見等なし)

それでは、提案のとおり事務局で資料を用意してもらいたい。

【高橋（秀）委員】

管轄はどうかという話もさることながら、このカルチャーセンターの使い勝手はどうなのか、具体的にやっていかないと、ただの話で終わってしまうと思う。

例えば、ここの冷暖房設備は古くて、5台くらい入っているうちの2台が動かない。和室のトイレがあって使いづらい、壊れたまま直されていない、20年以上体育館の放送設備が使えない、そういうものを洗い出しておいて、一つ一つ消し込んでいかないと前に進まないと思う。

【熊木会長】

利用者などに現状を聞き取るなど、施設の問題点を洗い出すということも今後の方針に付け加える。

【石崎係長】

最初に提案した進め方に加えて、施設の不備等に関して皆さんが協議できるように今後の進め方を考えたいと思う。今、担当課で把握している不備等もあるかと思うので、まずはそちらから聞き取りをしたいと思う。そのうえで、利用団体などから施設の課題を協議会が聞くといったことも可能だと思うので、進め方についてまた皆さんと検討していきたいと思う。

【熊木会長】

次に、その他について、事務局何かあるか。

【石崎係長】

事務局から、検討のお願いを1つと報告事項を1つ、合わせて2つお願いしたい。

まず1点目は、有田区地域協議会の開催曜日についての検討のお願いである。

昨年度第1回の協議会で、開催日を主に月曜日と決定したところだが、渡邊委員から、月曜日と金曜日はお子さんの関係で出席ができないという連絡があった。このことから、月、金以外の曜日を主な開催曜日とできないか検討をお願いしたい。なお、カルチャーセンターに確認したところ、開催曜日を決めて定期的にこの会議室を夜間使用する団体はないとのことであった。また、事務局が他に担当している区で火曜日を定例開催としている区があるため、可能であれば火曜日以外で検討をお願いしたい。

【熊木会長】

今ほど、事務局から開催曜日の変更について話があったので、開催曜日について再検討する。

(開催曜日について検討)

特段、不都合な曜日がないということなので、主な開催曜日を定めずに、その都度開催日を検討するというだけでよいか。

(意見等なし)

有田区の行事等が入っている場合もあるので、事務局と協議した上で開催日を決めていきたいと思う。

【石崎係長】

開催する曜日を定めないという形に修正させていただく。

次に、報告事項に移る。

3月27日に地域協議会会長会議が、直江津学びの交流館を会場に開催された。会長代理を含め、26人の出席があった。会議では、令和6年度に委員の皆さんにもアンケートにご協力いただいた地域自治推進プロジェクトにおける各検討項目の方策案等について、現時点での案が説明された。この案については、担当課である地域政策課が各地域協議会を回って説明と意見交換を行うということであった。

そこで、次回の有田区地域協議会を7月1日火曜日の午後6時30分から開催し、協議会の終了後に説明を受け、意見交換をする時間を設けさせていただきたい。

【熊木会長】

事務局から報告があったように、次回の協議会は7月1日で、協議会終了後、地域政策課から説明を受けるということで、都合をつけていただきたい。

ほかに質疑等を求めるがなし。

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

総合政策部 地域政策課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。